



今年3月卒業、第20期生 長井駿さん

いけば利益は高いが、次々に投資が必要、そのやり方から脱却しなければなりません。ではどうするか。人に投資していく。それが一番、リターンが高いと考えました。もちろん、ハイリスク・ハイリターンですけれどね。

先代のときの大工が60代、彼らの引退が早いのか、加瀬彰一・長井駿（カレッジ第20期生）をはじめ若い社員大工たちが育つのが早いのか。彼らにもそれは言っています。

建築科がある田無

工業高校が近くにあつたことも大きかったです。田無工高のご縁のきっかけは弊社で建設した、東京都の長寿命環境配慮型住宅事業の「ソーラータウン府中」に先生や生徒さん数十名が見学に来ていただいたことでした。その後長期就業訓練の派遣や受け入れ、JC（青年会議所）などの活動を通じて弊社専務が田無工業高校に職業講話で訪問させていただくなどの機会を通して縁が深まっていきました。

1面から・相羽建設インタビュー

田無工業高校と信頼関係

「東京建築カレッジのことはどこで知りましたか？」

親方の大工が新人を採っていた頃からカレッジに行かせていました。大工塾から何人か採り、この場合も親方に雇ってもらっていました

が、秋山和雄棟梁から「大工塾よりも建築カレッジのほうが良い」と推薦があり、加瀬と長井を最初に行かせることにしました。この2年間はとても良い期間となりました。週の前半は親方の下で働き、金曜、土曜はカレッジに通わせるとい

のが、新人の2年間の基本スタイルとなりました。

「カレッジの2年間を含めた育成期間の設定は。」

うちは7年間、直雇用です。その先は3つの選択肢を用意

1つは8年目に独立の道、もう一つは親方のところに転籍、もう一つは相羽建設の社員のままでいるという道です。

当社の費用負担を考えると、この期間を5年にしたいところですが、18歳で入社して5年で23歳。

これで「親方」にして、上棟式などで挨拶させて信頼を得られるのか、と考えました。なので7年に設定したのです。

技術は親方とカレッジに教え込んでもらう、若者の心を育てるのが僕らの役割。今、この仕組みに加わっていただいているパートナーの親方は3人です。それか

氏平さん 柴田さん 千葉さん 全国大会へ

全国青年技能競技大会 東京予選

本校の在校生、卒業生が出場する「全建総連東京都連 第31回青年技能競技大会」（出場選手24人）が7月23日、都立多摩職業能力開発センター府中校で開催され、9月19～21日に愛知県で開かれる「全建総連 全国青年技能競技大会」出場選手が決まりました。

第1位 金賞 氏平達也さん（第11期生、カレッジ指導員）、第2位 銀賞 柴田輝実さん（第13期生）、第3位 銅賞 菅原将太さん、第4位 千葉幸大さん（第10期生、カレッジ指導員）、第5位 小林貴志さん（第20期生）、第6位 赤井立矢さん（第13期生、カレッジ指導員）、審査員奨励賞 三浦伸晃さん。

この大会は、「四方転び踏み台」を共通課題に、制限時間6時間で、原寸図、木拵え、墨付け、加工、組み立ての精度を競うものです。全国大会の予選会であり、上位4位までの選手が全国青年技能競技大会に進みます。



左端から、千葉さん、柴田さん、氏平さん

親方と新入社員の関係にも気配り

ら、一定期間過ぎて、大工には向かない、という判断もありえます。そういう場合は、現場監督になつてもらおうという道も想定しています。

弊社は、月に一度の全社員会議には必ず参加させます。そこで研修も行ないますし、各自の悩みな

どは上長がヒアリングします。私は「技術と心の両方を磨いていこうね」と繰り返し語りかけています。とにかく、雇用の定着・継続については相羽建設がリスクを取り、若者を育てるという考え方で

それから、親方も



子ども工作教室後の記念撮影 photo_Yurica Terashima

なるべく30代の大工につけるようにしています。先輩の大工のほうに相談しやすいだろうから。60代以上の親方だとコミュニケーションがあまりすぎます。

――労働条件は？

最低賃金クリアは当然です。就業時間は午前8時～午後6時で、2時間休憩にしています。親方にはこれを極力守ってほしい。定時で退勤させてほしい、とはっきり伝えていきます。休日取得を含めて、建設業全体が変わっていかないといいないことを日々実感させられています。

――カレッジ教育の評価と要望は？

遅刻・欠席が多くなった社員大工に親身に対応していただき感謝しています。

カリキュラムは、まだ私は全体を理解しきれませんが、本人たちが楽しくやりがいを持って過ごしてもらえればいいと思います。内容的には、現場作業とのズレは感じていますが、一方で原理原則をカレッジできちんと学ぶことはとても大事です。

何よりも金曜、土曜が彼らにとって大きな息抜きの場になるのが良いですね。そして、同じ世界で頑張っている友人ができる。そのことが彼らの人生にとって大切と考えます。これはカリキュラム以上に評価し期待しているところです。弊社の社員大工達がやめずに続いているのもカレッジの先生や

友だちのおかげです。

○ ○ ○

――「町場」の工務店の仲間へのメッセージをお願いします。

僕らも試行錯誤の毎日です。ものづくりに以上に人づくりは難しい。頭で分かっているけど初めての実践なので。親方たちの人を育てるご苦労も実感させられています。とにかく、いかに続けさせて一人前にするか。何とか3年、3年間頑張らせることができます。根競べの面もありますね。

第一に強調したいのは、良いものをつくってあげれば、必ず認めてもらえるというところは真理ですが、一方で、良いものをつくるのは当たり前で、良いものを伝える必要があるという

とです。「大工、職人、建築って素晴らしいんだ」ということは、まだまだ伝えきれません。ここをしっかりとやって、良いものづくりを良い形でつないでいくことが大切です。

第二に、大きいことだけが良い時代ではない、ということなんです。今は「町場」の建築業も、大資本に集約されていく時代に入っています。小資本の連携で乗り越えられることはあります。例えば、いくつかの工務店が一緒に若者を育てていくようなやり方があるのではないのでしょうか。それぞれ一城の主ですから価値観は違うでしょう。でも連携・連動は可能です。一緒に採用し育てていくような方向を目指したいですね。



今年3月卒業、第20期生 加瀬彰一さん

この間、代替わりしている工務店ではどこも職人不足をどうするか、悩んでいます。同業他社というライバルではありますが、職人を育てたいという点では仲間です。なにか共同できないかと思っています。

当社としては、7年間はブランク無く採用していきます。来春入学の第23期生でも建築カレッジにお世話になる予定です。

（取材日：7月18日）

工務店が共同で若者を育てる仕組みを

東京建築カレッジ第19回公開講座「『住まいの文化』その継承と未来」 広範な市民の関心集めて、150人の参加で成功

7月16日、立教大学池袋キャンパスで開催した、東京建築カレッジ第19回公開講座「『住まいの文化』その継承と未来」は、約150人の受講者数で成功しました。今回の講座を通じて建築カレッジを初めて知ったという初参加の受講者が多く、建築に関心を持つ一般市民に、本校の存在をアピールするイベントとなりました。

内田青蔵さんは基調講演で「スクラップ&ビルドからキープ&チェンジへ」というスローガンを提示し、その実践のためには、「町のお医者さん」的な地域密着の建築技術技能者の存在がきわめて重要と語りました。

パネルディスカッションでは、西荻窪の「一樺庵（いっきょあん）」のオーナー、辻寛（つじゆたか）さんが、昭和8年築の自宅は当時の木造建築技術のレベルの高さを物語るものがたくさんある、と魅力的な写真で、受講者を魅了。建築カレッジ第11期生の西川みつ子さんは、あきる野市の養沢活性化委員会の活動で、荒れ果てた空き家を再生した経験を紹介しました。ここでも木造建築の確かな技術と知識が必須となります。第5期生の小松完さんは、足立区内で自ら手がけた大規模なリフォームについて語りました。長い歴史を経た住宅には、思いがけない発見が随所にあり、小松さんの腕と発想を信頼する「乗りの良い」施主さんと、楽しみながら「キープ&チェンジ」を実現したそうです。進行役を務めた本校講師の金田正夫さんは、小松さんの仕事に触れながら、建材メーカーの「カタログから材料を選ぶ家づくりをしていたら、失われてしまう技術技能がある」と持論を展開しました。



第19回公開講座は、東京建築カレッジの社会的使命、存在意義を改めて明確にしました。経年した建築を次代に受け継ぐという文化性と地球環境保全への貢献の両面で、その営みを可能にする建築の専門技術技能者の役割が重要になっていること、その担い手を育てる教育機関の重要性が浮き彫りになりました。そのことの意味を、主催者としてかみしめ、前進したいと思います。

「町医者的大工の確保が不可欠」
（内田青蔵氏）

広く市民にひらかれた学校をめざす
東京建築カレッジの新企画「ミニ公開講座」
☆8月4日（金曜）から始まります。
第1シリーズ「エアコンを使わずに、
快適に暮らす住まいづくり」
☆毎月1回開講（全8講）

日時 8月4日（金） 午後7時～午後8時30分
会場 東京建築カレッジ 池袋校舎 [参加無料]
担当 金田正夫 講師（無垢里一級建築士事務所）
詳しくはカレッジのウェブサイトにて



昨年同様、本校の母体、東京土建一般労働組合が加盟する「全国建設労働組合総連合」（全建総連）（全建総連）が東京都連合会が主催。東京建築カレッジの指導員の先生も参加して「伝統建築」の魅力発信する建前・上棟を披露します（写真は昨年の様子）。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

昨年同様、本校の母体、東京土建一般労働組合が加盟する「全国建設労働組合総連合」（全建総連）が主催。東京建築カレッジの指導員の先生も参加して「伝統建築」の魅力発信する建前・上棟を披露します（写真は昨年の様子）。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

伝統と革新
ものづくり
匠の技の祭典
2017
Monozukuri/Takumi no Waza
EXPO 2017